

5 定期便搭乗者数の推移

昭和39年7月に東京便が就航、次いで、大阪(伊丹)便(昭和54年5月)・札幌(昭和54年10月)が就航し、東京便の増便もあり、ピーク時の平成3年には約74万人の搭乗者数となった。

その後も、名古屋便(平成4年4月)・大阪(関西)便(平成7年4月)・福岡便(平成8年6月)・函館便(平成10年6月：季節運航)の就航はあったものの、平成4年の山形新幹線開通の影響による東京便の減便や、福岡便の運休(平成10年4月)、大阪(関西)便(平成14年7月)の運休、名古屋便・大阪(伊丹)便・札幌便の使用機材の小型化、平成20年のリーマンショックの影響による大阪(伊丹)便の減便や札幌便・名古屋便の運休(平成22年10月)、東京便の使用機材の小型化などにより搭乗者数は減少傾向が続き、平成23~25年は11万人台となるなど低迷した。

その後、平成26年3月の東京便増便や名古屋便の運航再開により搭乗者数は増加に転じ、さらに、名古屋便の増便(平成28年3月)、札幌便の運航再開(平成29年3月)により増加傾向となり、平成30年に30万人台を回復し、令和元年は33万2千人となった。

定期便乗降客数の推移(年次別)

